

IIAS NEWSLETTER

International Institute for Advanced Studies

47

April 2006

 財団法人
国際高等研究所

<http://www.iias.or.jp>

index

報 告

研究活動報告

第57回理事会・第51回評議員会を開催

第3回企画委員会開催

京都銀行協賛による公開講演会を開催

文部科学省による公益法人実地検査

中西 寛氏に招へい研究者を委嘱

2006年度科学研究費補助金(特定奨励費)への応募

2005年度研究事業の実績(総括)

フンボルト財団との共催国際フォーラム開催

紹 介

2006年度新規研究プロジェクト(5課題)

2005年度学術出版/2006年度の学術出版予定

IIASカレンダー ●研究活動(2006年4月~6月) / ●公開講演会等

参加者募集 ●茶会 / ●合同見学会 / ●公開講演会

お知らせ ●ゆめはんな(近鉄けいはんな線)開通でますます便利に

報 告

研究活動報告(2月1日~3月31日)

| 研究プロジェクト | 開催日 | 研究代表者 | 参加者数 |
|------------------------------------|-----------------|------------|------|
| 分化全能性一普遍性と特異性一 | 2月4日(土) | 原田 宏 | 11 |
| 産学連携の知的財産法モデル 知的財産理解度調査小委員会 | 2月7日(火) | 北川善太郎 | 12 |
| リスク問題に対する心理学的アプローチ~「安全と安心」再考~* | 2月7日(火) | 木下 富雄 | 4 |
| 産学連携の知的財産法モデル コピーアートフォーラム | 2月9日(木) | 北川善太郎 | 10 |
| 電子系の新しい機能 | 2月10日(金) | 新庄 輝也 | 8 |
| 産学連携の知的財産法モデル 知的財産理解度調査小委員会 | 2月14日(火) | 北川善太郎 | 9 |
| リスク問題に対する心理学的アプローチ~「安全と安心」再考~* | 2月14日(火) | 木下 富雄 | 4 |
| 産学連携の知的財産法モデル 研究打合せ | 2月17日(金) | 北川善太郎 | 5 |
| 第3回企画委員会 | 2月17日(金)~18日(土) | 金森順次郎 | 21 |
| 開発途上国と日本人長期政策アドバイザー | 2月18日(土) | 橋本日出男 | 7 |
| 産学連携の知的財産法モデル 知的財産理解度調査小委員会 | 2月21日(火) | 北川善太郎 | 12 |
| 量子情報の数理 | 2月24日(金)~25日(土) | 大矢 雅則 | 18 |
| 芸術と社会~芸術表現における伝統と革新の問題~・学習の生物学(合同) | 2月25日(土) | 佐々木正子・星 元紀 | 14 |
| リスク問題に対する心理学的アプローチ~「安全と安心」再考~* | 2月28日(火) | 木下 富雄 | 4 |

*フェロー研究会

| 研究プロジェクト | 開催日 | 研究代表者 | 参加者数 |
|------------------------------------|------------------|------------|------|
| 産学連携の知的財産法モデル 知的財産理解度調査小委員会 | 3月1日(水) | 北川善太郎 | 12 |
| 電子系の新しい機能 | 3月3日(金)～4日(土) | 新庄 輝也 | 51 |
| スキルの科学 幹事会 | 3月4日(土) | 岩田 一明 | 7 |
| 産学連携の知的財産法モデル 知的財産理解度調査小委員会 | 3月7日(火) | 北川善太郎 | 13 |
| 第8回コンピューターショナル・マテリアル・デザインワークショップ | 3月7日(火)～11日(土) | 赤井 久純 | 86 |
| 高度計測技術の発展と埋没 | 3月10日(金)～11日(土) | 本河 光博 | 22 |
| 次世代量子シミュレータ・量子デザインの手法と開発研究 | 3月10日(金)～11日(土) | 赤井 久純 | 48 |
| スキルの科学 | 3月11日(土) | 岩田 一明 | 14 |
| センサー論 | 3月11日(土)～12日(日) | 鷲田 清一 | 7 |
| 多元的世界観の共存とその条件～閉ざされた世界から開かれた世界へ～ | 3月14日(火)～15日(水) | 石川 文康 | 6 |
| 産学連携の知的財産法モデル 知的財産理解度調査小委員会 | 3月15日(水) | 北川善太郎 | 12 |
| 女性研究者と科学の未来 | 3月17日(金)～18日(土) | 伊藤 厚子 | 12 |
| ドイツ民法と日本民法のアイデンティティ～比較法の視点から～ | 3月20日(月)～21日(火) | 北川善太郎 | 49 |
| 芸術と社会～芸術表現における伝統と革新の問題～・学習の生物学(合同) | 3月21日(火) | 佐々木正子・星 元紀 | 12 |
| 学習の生物学 | 3月22日(水) | 星 元紀 | 6 |
| 産学連携の知的財産法モデル 知的財産理解度調査小委員会 | 3月22日(水) | 北川善太郎 | 11 |
| 芸術と社会～芸術表現における伝統と革新の問題～ | 3月24日(金)～25日(土) | 佐々木正子 | 9 |
| 産学連携の知的財産法モデル コピーマートフォーラム | 3月25日(土) | 北川善太郎 | 3 |
| 産学連携の知的財産法モデル 知的財産理解度調査小委員会 | 3月28日(火) | 北川善太郎 | 12 |
| リスク問題に対する心理学的アプローチ～「安全と安心」再考～* | 3月28日(火) | 木下 富雄 | 4 |
| 進化と文法 | 3月30日(木)～31日(金) | 藤村 靖・中島 泉 | 6 |
| 集団規範の研究* | 3月31日(木)～4月1日(土) | 木下 富雄 | 2 |

* フェロー研究会

報告

第57回理事会・第51回評議員会を開催(3月17日)

3月17日に第57回理事会・第51回評議員会を開催しました。会議では2006年度事業計画・収支予算を承認し、理事・監事・評議員の改選を行った後、理事長・副理事長・専務理事の互選、また、顧問の改選を行いました。

(1) 2006年度事業計画

研究プロジェクト24件、フォローアップ研究4件、招へいフェロー新規4名、特別委員8名、若手研究者の育成事業2名、フォーラム2件、一般公開事業5件等の実施を計画しています。

(2) 2006年度収支予算

2006年予算は新しい公益法人会計基準に基づき、作成しました。事業活動収入総額149,300千円(対前年比予算費△21,700千円)事業活動支出総額229,950千円(同△10,300千円)収支差額は、運用財産取崩しにより補てんされます。

(3) 理事・監事・評議員の改選

3月31日に2年間の任期満了となるため、改選が行われました。理事は、新任1名、再任26名、計27名、幹事3名全員が再任、評議員は、新任5名、再任40名、計45名が選任されました。任期は2年です。

(4) 理事長・副理事長の互選

理事長には立石義雄・オムロン会長、副理事長には下妻 博・関西経済連合会副会長、西室泰三・日本経済団体連合会評議員会副議長、矢島英敏・鳥津製作所会長、専務理事には野村一雄・オムロン常勤顧問がそれぞれ再任されました。

(5) 顧問の選任

顧問10名全員が再任されました。

報告

第3回企画委員会開催(2月17日～18日)

2005年度第3回企画委員会が、企画委員、特別委員、フェロー等21名が出席して2月17日～18日に開催されました。委員会では、金森順次郎所長から研究事業の進捗状況について報告が行われた後、2006年度研究プロジェクトの新規提案について意見交換が行われました。続いて、田口紀子企画委員による「地誌小説(「歴史小説」の反意語)としての『カルメン』～『カルメン』のスペイン性はどのように演出されたか～」の話題提供、北川善太郎副所長から学術情報モデル及び産学連携モデルとして提案された「高等研モデル」について説明発表があり、これらについて活発な質疑応答が行われました。

報告

京都銀行協賛による公開講演会を開催(3月4日)

2005年度第2回目として3月4日午後、吉田忠高等研フェロー・東北大学名誉教授による講演会「江戸時代における脳と神経の発見～ヒトは胸で感じるのか、頭で感じるのか～」が京都銀行の協賛をいただき、開催されました。55名の方々が来所され、熱心に聴講されました。



報告

文部科学省による公益法人実地検査(3月9日)

文部科学省による法人の実地検査が3月9日にあり、法人の業務の運営状況、事業の内容及び実施状況、資産状況、予算及び決算等を対象に検査が行われました。

報告

中西 寛氏に招へい研究者を委嘱

中西 寛 大阪大学大学院工学研究科助手に招へい研究者を委嘱しました。委嘱期間は2006年3月11日から1年間。中西招へい研究者は、専門的人材育成事業「コンピューターショナル・マテリアルズ・デザイン(CMD)」ワークショップの実行委員会委員として高等研の事業に参画されています。



報告

2006年度科学研究費補助金(特定奨励費)への応募

2006年度科学研究費補助金(特定奨励費)の事業計画調書を3月22日文科科学省に提出しました。新たな3年間の研究事業への補助金の交付申請を行ったもので、2006年度応募額は対前年度600万円増の4,500万円となりました。

2005年度研究事業の実績(総括)

| 研究プロジェクト名称 | 研究会回数 | 出席者延人数 | 研究プロジェクト名称 | 研究会回数 | 出席者延人数 |
|-------------------------------------|-------|--------|------------------------------------|-------|--------|
| スキルの科学 | 11 | 129 | 作業グループ「女性研究者と科学の未来」 | 3 | 38 |
| 量子情報の数理 | 3 | 54 | 作業グループ「先端考古科学」 | 3 | 19 |
| 共同研究の法モデル | 4 | 89 | 作業グループ「ミトコンドリア再考～生物界における共生と支配～」 | 3 | 18 |
| 21世紀の宇宙開発・宇宙環境利用の問題～人文社会科学からのアプローチ～ | 3 | 24 | 電子系の新しい機能 | 9 | 268 |
| 国際比較からみた日本社会における自己決定と合意形成 | 1 | 20 | 産学連携の知的財産法モデル | 62 | 652 |
| 開発途上国と日本人長期政策アドバイザー | 3 | 24 | フンボルト財団共催「日独における学問と文化」 | 1 | 52 |
| 分化全能性～普遍性と特異性～ | 4 | 39 | 大阪大学共催「次世代量子シミュレータ・量子デザインの手法と開発研究」 | 2 | 99 |
| センサー論 | 3 | 23 | 学術フォーラム「進歩主義の後継はなにか」 | 1 | 10 |
| 芸術と社会～芸術表現における伝統と革新の問題～ | 5 | 43 | 大阪大学「CMT国際ワークショップ」 | 1 | 55 |
| ダイナミクスからみた生命的システムの進化と意義 | 3 | 57 | 専門的人材育成事業「CMDワークショップ」 | 2 | 170 |
| 隙間～自然・人間・社会の現象学～ | 3 | 45 | 「東西の恋愛文化」(フォローアップ研究) | 1 | 4 |
| 学習の生物学 | 7 | 47 | 「一つの世界の成立とその条件」(フォローアップ研究) | 2 | 10 |
| 多元的世界観の共存とその条件～閉ざされた世界から開かれた世界へ～ | 5 | 37 | 「思考の脳内メカニズムに関する総合的検討」(フォローアップ研究) | 1 | 11 |
| 学術研究機関における学術情報システムのモデル構築 | 3 | 32 | フェロー研究会 | 26 | 144 |
| コア・エグゼクティブと幹部公務員制度の研究 | 1 | 7 | 計 | 181 | 2275 |
| 作業グループ「進化と文法」 | 2 | 11 | 公開講演会等 | 4 | 349 |
| 作業グループ「高度計測技術の発展と埋没」 | 3 | 44 | | | |

報告

フンボルト財団との共催国際フォーラム開催
(3月20日～21日)

「日本におけるドイツ年」行事の一環として、高等研は「学術交流に関する覚書」を締結しているフンボルト財団と共催事業で国際フォーラム「ドイツ民法と日本民法のアイデンティティ～比較法の視点から～」を3月20日～21日に開催しました。

このフォーラムにはドイツを中心に海外から民法研究者を招へいし、ドイツ法、フランス法、英米法の観点から、EU法におけるドイツ法のアイデンティティ、ヨーロッパやコモン・ローからみた日本法のアイデンティティを討議しました。

なお、このフォーラムは研究プロジェクト「共同研究の法モデル」(研究代表者:北川善太郎副所長)との合同により開催されました。

紹介

2006年度新規研究プロジェクト(5課題)

①生命科学の発展に対応した新しい社会規範の構築(3年度計画)

研究代表者:位田隆一(企画委員/京都大学大学院法学研究科教授)
生命科学が社会の理解を得て適切に発展していくための規範枠組みについて、学際的に分析・検討し、生命科学・医学研究者・医師と社会一般の双方の受け入れることのできる社会規範の構築への提言を試みようとしています。

②スキルと組織(3年度計画)

研究代表者:榎木哲夫(特別委員/京都大学大学院工学研究科教授)
人間の活動を、自動化機器・情報技術(IT)などの道具を媒介として対象とともに組織の中で発達していく過程として捉え、その過程と組織におけるルールや分業との関係性をも考慮して、変化を起こす能動的個人と組織が相互に関係しながら変化していく過程に着目し、自己組織性、創発性、力動性、の基軸のもとに、「スキルと組織」に関する学際的な研究を展開します。

③認識と運動における主体性の数理脳科学(3年度計画)

研究代表者:沢田康次(特別委員・フェロー/東北大学名誉教授/東北工業大学教授)

「脳機能としての認識と運動における主体性の解明」を研究課題として、その実証可能な数理的研究の可能性を追及します。具体的には、1)自己は数理的にいかに表現できるか。2)対等な自己の間のコミュニケーションは単純な自己からどのような修正を受けるか。を明らかにすることを目的とします。

④グローバリゼーションと市民社会(3年度計画)

研究代表者:仁科一彦(特別委員/大阪大学理事・副学長・大学院経済学研究科教授)

いわゆるグローバリゼーションの進展によって、文化や人々の価値観をはじめとする社会生活のさまざまな側面が影響を受け、変貌することが否めない状況下で、市民社会に生じると考えられる変化を、経済学、政治学、法学、歴史学の4研究領域からのアプローチを採用して研究します。

⑤19世紀東アジアにおける国際秩序観の比較研究(3年度計画)

研究代表者:吉田 忠(特別委員・フェロー/東北大学名誉教授)

19世紀東アジアでは、近代国家の創出が共通の課題であった中で、伝統的には華夷秩序思想に桎梏のもとにあったといえる日本、中国、朝鮮の東アジア三国が、この華夷秩序観から近代国家的対外観、すなわち国際秩序観への転回の過程とその要因を再検討することを目指します。

※2006年度研究プロジェクト事業計画一覧表はホームページをご参照ください。

紹介

2005年度学術出版 <()は書籍版の税抜き価格>

新刊書案内(2006年3月16日発行)

高等研報告書0501「東西の恋愛芸芸」(3000円)

高等研報告書0502「種族維持と個体維持のあつれきと提携」(2600円)

ホームページ「学術出版」にアクセスすると「書籍版」と「オンライン版」(pdfファイル形式)の購入ができます。

紹介

2006年度の学術出版予定

下記報告書7冊、選書1冊の発行を予定しています。

◆高等研報告書

『災害観の文明論的考察』(小堀鐸二他著)、『「一つの世界」の成立とその条件』(中川久定他著)、『思考の脳内メカニズムに関する総合的検討』(波多野諄余夫他著)、『スキルの科学』(岩田一明他著)、『量子情報の数理』(大矢雅則他著)、『開発途上国と日本人長期政策アドバイザー』(橋本日出男他著)、『センサー論』(鷺田清一他著)

◆高等研選書

NO.21「岩倉具視における「国家」と「家庭」～米欧巡回中携帯の「メモ帳」とその後の家族の歴史」(岩倉具忠著)

●研究活動(4月1日～6月30日)

| 開催日 | 研究プロジェクト | 研究代表者 |
|-----------------|----------------------------------|-------|
| 5月12日(金) | 学術研究機関における学術情報システムのモデル構築 | 北川善太郎 |
| 5月12日(金)、13日(土) | 学習の生物学 | 星 元紀 |
| 5月13日(土) | 芸術と社会～芸術表現における伝統と革新の問題～ | 佐々木正子 |
| 5月15日(月) | 電子系の新しい機能 幹事会 | 新庄 輝也 |
| 5月20日(土) | スキルの科学(フォローアップ研究) | 岩田 一明 |
| 6月2日(金)、3日(土) | 多元的世界観の共存とその条件～閉ざされた世界から開かれた世界へ～ | 石川 文康 |
| 6月9日(金)、10日(土) | 電子系の新しい機能 | 新庄 輝也 |
| 6月24日(土) | 開発途上国と日本人長期政策アドバイザー(フォローアップ研究) | 橋本日出男 |

●公開講演会等

| 開催日 | 講演テーマ | 講師 |
|----------|---------------------------------------|------|
| 5月13日(土) | 「雅松庵」茶会 | 本間宗寿 |
| 5月17日(水) | 合同見学会 | — |
| 5月27日(土) | 公開講演会「燃料電池が開く社会と産業～エネルギー研究最前線と地球の未来～」 | 吉田 博 |

参加者募集

公開事業を3件開催予定 (高等研ホームページをご参照ください)

① 高等研「雅松庵」茶会・お点前体験

茶道裏千家及び(株)福寿園のご協力を得て、高等研茶室「雅松庵」の茶会を開催します。裏千家前家元千玄室氏からご寄贈いただいた伝統的な様式のお茶室で気楽にお茶に親しんでいただこうという趣向です。また椅子に座ってお点前の手ほどきを受けられる体験コーナーも設けます。

子供から大人まで多くの方々のご来場をお待ちしています。

開催日:2006年5月13日(土) 受付時間:13時～15時30分

茶 席:1席500円 お点前体験コーナー:無料



② 合同見学会

主に近隣の住民の方々を対象に、高等研への理解を更に深めて親しみを持っていただくため、隣接する(財)地球環境産業技術研究機構(RITE)及びオムロン(株)京阪奈イノベーションセンターと合同で施設見学会を開催します。

開催日:2006年5月17日(水) 受付時間:10時もしくは13時30分 参加費:無料

③ 公開講演会「燃料電池が開く社会と産業～エネルギー研究最前線と地球の未来～」

本事業は京都銀行のご協賛をいただき、実施します。

講演趣旨:化石燃料の代替エネルギーとして利用するための高効率の太陽電池、風力発電装置、潮波発電装置などを開発が要求されています。

中でも地球温暖化の原因となる炭酸ガスを極力減らすために中心的な役割を果たす燃料電池が注目されています。

講演では水素を基本とした燃料電池の必要性や、水素燃料電池の原理と応用、実用化のための問題点、また、これらに立脚した社会と産業がもたらす地球の未来について考えます。

講 師:吉田 博 大阪大学産業科学研究所教授

開催日:2006年5月27日(土) 開催時間:14時～16時

場 所:高等研レクチャーホール 対象:高校生以上の方 聴講:無料



※上記3事業はゆめはんな連携事業です。

お知らせ

ゆめはんな(近鉄けいはんな線)開通でますます便利に

けいはんな学研都市から大阪ベイエリアに至る地域を一本のレールで結ぶ近鉄けいはんな線と地下鉄中央線の統一愛称「ゆめはんな」が2006年3月27日に開通しました。近鉄生駒駅から新設された「学研奈良登美ヶ丘」駅まで約10分で、奈良交道路線バスも増設されました。高等研へお越しの時には、「学研奈良登美ヶ丘」駅から47番祝園駅行に乗車、最寄りの「けいはんな記念公園」バス停までおよそ14分です。大阪からのアクセスがますます便利になりましたので、ぜひご利用ください。

編集・発行者

財団法人 国際高等研究所

〒619-0225 京都府相楽郡木津町木津川台9丁目3番地

TEL: 0774-73-4001 FAX: 0774-73-4005

E-mail: editor@iias.or.jp

http://www.iias.or.jp